

ニッポン人・脈・記 jinmyaku@asahi.com

認知症のわたし⑦

安心感はよく効く薬



上野秀樹さん

2009年春、認知症の専門病棟をつくる計画があった。いまの病院に移る。「理想の病棟をつくりたい」と燃えていた。手始めに「物忘れ外来」を開く。ところが、受診者は月に数人しかいない。介護施設や自宅に居る認知症の人たちの往診を始めた。

妄想や幻覚、暴力的な言動で、行き場のない人が多く、家族も困っていた。入院させて治療するのが最善だと判断した。暴れてどうしようもない人には強い鎮静薬を使い、ベッドに体を縛る。約180人を診た。7、8割は症状が治まった。

「私たちは、認知症の人の訴えを理解しようとするところか、疎んじ、拘束するなど不当な扱いをしてきた」精神科医の上野秀樹(49)は一読し思った。「これは僕のことだ」。千葉県旭市にある海上療養所の副院長。東大医学部を出て、東京都立松沢病院には6年いた。うち3年は認知症の専門病棟を担当した。



新田国夫さん

間もなく80歳代の認知症の男性について、長男から「最近、暴れるようになった」と相談を受けた。空き瓶や洋服

を外に投げる。車にいたずら書きをし、金を払わずに商店から品物を持ち帰る。数日前には、新聞紙に火をつけて近所の家の前に置いたという。過去の経験に照らせば、入院の対象になる。上野はその日のうちに男性宅を訪ねた。男性は新しい薬を拒んだ。薬局に頼んで、普段飲む便秘薬に興奮を抑える薬を少量混ぜてもらった。毎日、長男と連絡をとり、様子聞きながら薬の量を加減する。男性は1週間で落ち着いてきた。

この3年半で診た人は700人。入院を勧めたのは20人ほどだった。家族や施設の人と協力すれば、入院はほとんど必要ない。専門病棟をつくる計画は白紙に戻った。家族への支援こそが大事だとわかり、携帯電話の番号を伝えた。「いつでもつながる」という安心感は、下手な薬よりよく効く。家族が穏やかだと本人も落ち着きます」

新田国夫(67)は1990年、東京都国立市にクリニックを開いた。数年後、認知症のお年寄りを往診しては、いと頼まれるようになる。夜、

新田は驚いた。宅老所に通うようになると、お年寄りの不眠や興奮は治まり、薬がいらなくなった。必要なのは認知症の人と向き合う人手であり、入院ではない。北欧などの病院や施設を視察して、思いは確信に変わった。

寝ないというお年寄りの家族は疲れてきた。認知症の人が通う宅老所を東北まで見学に行った。家庭的な雰囲気よかった。地元探してもいい、介護に参加したい人を募る。デイサービス施設を辞めた妻(52)ら6人の主婦が集まった。新田は月10万円の家賃と改装費100万円を渡し、97年、「つくしの家」ができた。運営も淡らに任せた。

スタッフは利用者とはほぼ同じ人数だったから、じつじつ向き合えた。妻たちは、認知症の人の徘徊について歩いた。歩き疲れたら、偶然を装ってあいさつし、お茶を勧める。毎朝、ホウレン草や小松菜を持ってくる農家の男性と、一緒に野菜の泥を洗

甲府 0 17 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

静岡 10 17 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

Yakult ヤクルト400に比べ 日さ約25%ダウン・カロリー-30%カット

0120-11-8960 (平日 9:00~17:30)

親族一同が 湯治で集う

栃木の小野口圭一さん(野口)は「壬生しいたけ組合」の仲間を誘って湯治に来られました。

足によいアシノオンセン 薬草の湯 287-74-0211

野口温泉 栃木県那須町野口146

日本語のチカラ・表現力を後世に残したい 子どもから大人まで愛される絵本を是非あなたの手で

第3回 文芸社出版文化振興基金事務局

えほん大賞

大賞2作品は 賞金各 50万円+書籍化!

第1回 大賞受賞作品 にしむらりさ さくえ かさをわすれたひ

文芸社 文芸社サロンで行われた、第1回えほん大賞授賞式。大賞のにしむらりささんをはじめ各賞受賞者のみなさんへ、参議院議員の中曾根弘文運営委員長から賞状が授与されました。

締切 2012年 10月20日(土) 当日消印有効

メール: info@bunkakikin.org TEL: 03-4530-8088

第3回募集テーマ 「たからもの」

①絵本部門 絵本作品 タテ・ヨコ不問(サイズは最大A3まで) ②ストーリー部門 絵本にしたい物語(原稿枚数不問)

原稿応募先 メール: oubo@bunkakikin.org 郵送: 〒160-0022東京都新宿区新宿1-10-1

「文芸社出版文化振興基金」事務局「第3回えほん大賞」係 お問合せ先: info@bunkakikin.org TEL: 03-4530-8088